



## 訓練プランニングシート（高所作業車編②）

<b>訓練項目</b>	高所作業車の駐車	<b>使用資材</b>	—
		<b>使用工具</b>	高所作業車
<b>所要時間</b>	<b>内容（ポイント）</b>		
10分程度	<p>◆昇降柱訓練の待機時間等を活用し、高所作業車の駐車方法について確認。</p> <p>～確認ポイント～            ≪当該車両を作業で使用する場合≫</p> <p>①サイドブレーキを引く。</p> <p>②輪止めを設置する。            ◇輪止めは2個以上使用し、原則として次のとおり設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦地においては、「<u>後輪タイヤの前後</u>」に設置する。</li> </ul> <div data-bbox="491 891 1398 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>➤ 操作者が平坦地と思っていても、どちらかに傾斜している可能性があるため。（錯覚による災害を防止する）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>傾斜地においては、「左右の後輪タイヤの坂下側」</u>に設置する。            なお、<u>路面が滑りやすい状態の場合は前輪タイヤ坂下側にも設置する。</u>            （合計4個）</li> </ul> <div data-bbox="491 1137 1398 1536" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>➤ トーネックによる検証の結果、7度の傾斜地においても輪止めを後輪タイヤの左右に各1個（計2個）設置していれば、ジャッキ格納時においてサイドブレーキが解除となっても逸走は防止できた。</p>  <p style="text-align: right;">路面が滑りやすい状態の場合は、前輪タイヤ坂下側にも設置。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇一般作業車の輪止めを大型で自重の大きい車両には使用しない。</li> <li>◇輪止めは、効果が発揮できるよう、<u>タイヤに密着させて設置する。</u></li> </ul> <div data-bbox="491 1664 1398 2047" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>➤ ジャッキアップまでの間にサイドブレーキに不具合やゆるみなどが生じた場合に、輪止めを密着させることで効果が最大限発揮できる。</p>  <p style="text-align: right;">輪止めは、タイヤに密着させて設置。</p> </div>		
<b>特記事項</b>			

訓練項目	高所作業車の駐車	使用資材	—
		使用工具	高所作業車
所要時間	内容（ポイント）		
10分程度	<p>&lt;注意事項&gt;</p> <p>※傾斜地(坂道)での作業は、運転席を必ず坂下方向に向けて設置する。  ※凍結路面・積雪路面では、スベリ止め処置を施す。  ※当該車両を作業で使用する場合は、<u>タイヤの地切りができ、かつ車両の水平が確保できることを条件とする。</u>  (タイヤの地切りができかつ車両の水平が確保できる路面傾斜角度は7度程度)  ※ジャッキ格納時は、<u>輪止めの位置やサイドブレーキの状態を確認した後に操作を行う。</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>➤ 車両を作業で使用している間に、“車両の若干の移動”、“輪止めの移動”および“サイドブレーキに不具合やゆるみ”が生じる可能性もあることから、ジャッキ格納前に輪止めの位置やサイドブレーキの状態を確認する。</p> </div> <p>≪当該車両を作業で使用しない場合≫</p> <p>①傾斜地に駐車する場合は、輪止めを2個以上設置し、原則として左右の後輪タイヤの坂下側に密着させて設置する。</p> <p>②平坦地に駐車する場合でも、次のような場合は、輪止めを2個以上設置し、原則として後輪タイヤの前後に密着させて設置する。  ◇駐車位置の前後に切土または崖など落差がある場合  ◇駐車場所の直近で掘削作業を行う場合  ◇外力(衝撃・風力・振動など)の影響を受けると考えられる場合  ※駐車に際しては、地形を問わずサイドブレーキおよびギア(AT車はパーキング)の投入によるロックを必ず励行する。</p> <p>③作業場所から離れた位置に駐車する場合、作業場所から駐車位置が確認できない場所に駐車する場合は、「ドアロック」を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>以上の内容は、平成22年12月に静岡支店管内で発生した高所作業車による挟まれ死亡災害(参考資料参照)を受け、同事象の発生を防止するために、トーエネックにおいて、輪止めの設置個数や方法を見直した結果を反映したものである。</p> </div>		
特記事項	参考資料「H22.12.1発生 請負災害速報(保安伐採作業に従事中、高所作業車間に挟まれ死亡)」		